

「フジャンド市障がい児リハビリセンター建設計画」引渡し式

5月27日、宮下大使は、タジキスタン北部に位置するソグド州の州都フジャンド市を訪問し、「草の根・人間の安全保障無償資金協力」のスキームで実施された障がい児リハビリセンター建設プロジェクトの引渡し式に出席したところ、概要は以下のとおりです。

- 1 宮下大使は挨拶で、「障がい児支援は社会にとって重要な課題です。今回、このような素晴らしいセンターが建設され、障がいを持った子どもたちへの支援が拡充されることを嬉しく思います。障がい者を含む全ての人と一緒に幸せに暮らせる未来を願っています」と述べました。
- 2 総額88,515米ドルの本プロジェクトは、フジャンド市の障がい児の社会環境改善及び自立促進を目的として、我が国政府が資金を供与し、同市により実施されたものです。市内にはこれまで、障がい児用リハビリ施設が存在せず、障がい児の療育に際してその家族、病院関係者等は大きな負担を強いられていました。今回、2階建てのセンターが建設されたことによって、フジャンド市及び近隣の郡に在住する障がい児約600名が、言語療法や運動療法等の支援を受けられるようになりました。
- 3 引渡し式にはフィルザ・ヌルロソダ・フジャンド副市長をはじめ、センター利用者や大勢の地域住民が参席しました。ヌルロソダ副市長からは、日本の支援に対する感謝の言葉が述べられました。



タジキスタンの伝統であるパンと蜂蜜で歓迎される宮下大使



テープカットの様子



新設されたセンターでリハビリを行う子どもたち



センター利用者や地域住民らとの記念撮影